

1 産地の概要

＜対象地域＞ 田原市
 ＜対象品目＞ オオバ
 ＜産地の現状・課題＞

- ・愛知県田原市のオオバの作付面積は13 haで市町村別で県内3位の産地である。JA愛知みなみ泉つまもの出荷組合の部会員は9戸で、栽培面積は5.2 haである(令和2年度)。環境測定装置や炭酸ガス発生機を活用して環境制御を実践している面積は2haである。
- ・需要期以外の安定供給が求められるが、春秋期は茎伸長が早いいため温湿度及びかん水管理が難しいが、産地に明確な栽培管理指標がない。また、雇用労働者が、収穫できない草高(150cm)になると栽培を終了し、植え替えとなる。植え替えに伴い、ほ場準備から収穫開始までの期間は約1か月を要することから、年間の収穫期間を長く確保するためには春夏期に茎を伸ばしすぎない管理が重要である。

2 検討体制

- ＜田原市オオバ活性化協議会構成員と役割＞
- ・生産者グループ「田原市オオバ栽培研究会」(役割:年1.5作栽培技術体系に向けた栽培管理、革新計画の策定)
 - ・愛知みなみ農業協同組合(役割:事務局、検討会の開催、革新計画の策定)
 - ・愛知県東三河農林水産事務所田原農業改良普及課(役割:栽培指導、実証計画の分析、革新計画の策定)



栽培状況の確認



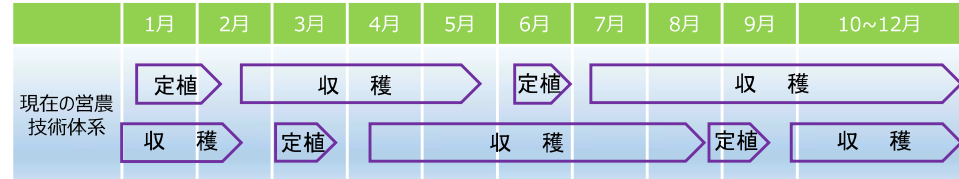
視察調査の様子

3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

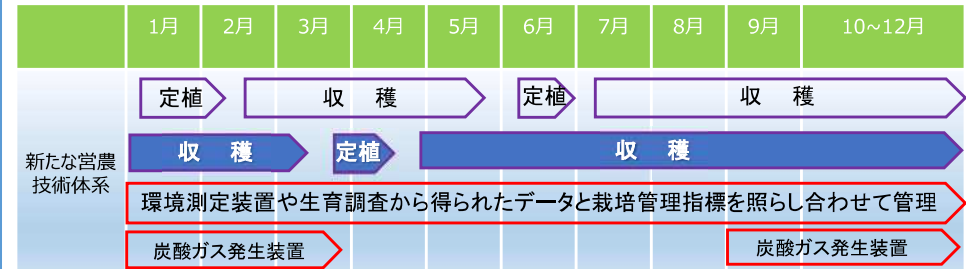
栽培コンサルタントの技術支援に基づき、年1.5作栽培(栽培期間8か月)を実証する。その実証結果に基づき、栽培者が簡易に取り組みやすい生育調査方法、栽培管理指標を明らかにする。

年2作栽培を組み合わせた現状の栽培体系



↓ 環境測定装置及び炭酸ガス発生装置の導入

年1.5作栽培を組み合わせた新たな栽培体系(年1.5作栽培は白抜き)



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

技術支援に基づき、年1.5作栽培を実証した結果、草高は150cm以内、収穫量は年2作型の1400kgと同等以上となった。また、生育調査方法、栽培管理指標が明らかとなった。

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R3	R4	R5
愛知県 東三河農林水産事務所 田原農業改良普及課	年1.5作栽培体系及び統合環境制御技術の活用支援		
愛知みなみ 農業協同組合	栽培管理指標に基づく栽培指導、勉強会の開催		
田原市オオバ栽培 研究会	栽培管理指標に基づく年1.5作栽培体系の取組拡大		